

ふくよか

地域で支える医療と介護

2026 | 冬号 ■長崎県病院企業団本部
■令和8年1月発行



対州馬(対馬市)

CONTENTS

- P1 ——— 企業長より
- P2 ——— 看護師確保・育成の取組
- P3 ——— 第47回 長崎県地域医療研究会
- P4 ——— 介護福祉士の活動
- P5 ——— 令和7年度 中堅職員研修報告
- P6 ——— 上半期の経営状況／第22回「長崎の医療と病院経営を考える会」
- P7 ——— BREAK TIME

「ふくよか」の由来

医療人として患者さんに寄り添った会話が自然と出てくるような能力を付けて欲しいとの願いが込められています。

令和8年の年頭所感

長崎県病院企業団企業長 八橋 弘

明けましておめでと(う)ございます。この年末年始も昨年と同様に9連休となりました。しかし病気や怪我に休日はありません。日頃より地域医療を支える企業団病院においては、この期間こそ特に忙しい日々であったことと思います。救急・急変対応ならびに入院患者さんの対応に従事された職員の皆さんに、心より感謝申し上げます。

昨年の大きな出来事として、新内閣の発足と相次いで打ち出された経済や社会保障に関する新たな政策が挙げられます。こうした政策が特に若い世代から高い支持が得られている点は、従来とは異なる政治動向であり、日本の未来への期待の表れと感じています。

一方、日本の病院経営の厳しい現実に関する記事が、昨年後半から新聞各紙で繰り返し報じられています。私は一昨年10月の地域医療研究会において「病院経

営の悪化は収入の減少よりも、支出の増加幅が大きいことに起因する」とお話ししました。平成26年と令和

元年の消費税率引上げ、急激な円安に伴う物価上昇、人件費の上昇といった負担が重なる一方で、診療報酬は十分な改定がなされぬままです。病気の診療では、原因を突き止めて取り除くことが原則であり、それが難しい場合は応急処置を経て根本治療につなげます。病院経営も同様であり、今年こそ厳しい状況に一筋の光が差すことを期待しています。

さて、最近「患者中心の医療(Patient-Centered Care:PCC)」に関する講演を依頼されるようになりました。なぜ今、PCCが改めて注目されるのでしょうか。PCCは2000年頃、米国で医療の質を測る六つの主要項目の一つとして位置づけられました。当時の米国では、医療過誤や患者の尊厳軽視など多くの医療矛

盾が指摘され、

その解決策としてPCCと

SDM(共有意思決定)が提案

された経緯があります。

ここで、従来の医療との違いを整理します。パターンリズムとは、医師がすべての意思決定を行うモデルです。インフォームド・コンセントでは、医師が情報を提供しますが、患者の理解や価値観が置き去りになりがちです。共有意思決定(SDM)とは、専門的情報と患者の価値観を共有し、対話を通じて共に治療方針を決める手法です。これは、患者の「こう生きたい」という願いを医療の根幹に据えるPCCを実現するための具体的なコ

看護師の確保・育成の取組

看護師の確保対策

病院企業団では、看護学生の実習受け入れや養成施設への訪問、各種就職説明会への参加、広報誌やホームページ・SNSなど広報媒体を活用した発信、応援ナースの活用など、日頃から看護師の確保に努めています。

企業団本部でも、10月25日の第11回日本NP学会学術集会(島根県)の展示ブースに出展し、来場のあった診療看護師養成課程の方や現役診療看護師などの方々に、病院企業団の概要などについて説明を行いました。ブースには40名程度の方が来場し、病院企業団の現状や魅力を広く情報発信することができました。また、同学会では、企業団病院から庄山、寺岡診療看護師が「離島へき地で活動する診療看護師(NP)の交流会を開催して」と題して発表を行いました。



看護師の資格取得支援制度

病院企業団では、職員の認定・診療看護師や助産師の資格取得だけでなく、今年度から看護師の特定行為研修※の資格支援も行っています。

※特定行為は、診療の補助であって、看護師が手順書により行う場合に、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる38行為です。

コミュニケーション技法とされています。最近、都会の高度急性期病院に入院された患者さんから直接お話を伺う機会がありました。高度急性期病院では、現在の経営の困難さから、効率性と利益性を優先した病院経営を強いられるケースが多いようです。その方は「治療内容は高度でも、どこか患者の存在が忘れ去られているように感じた」と話されました。このような職場環境に、医療人としての矛盾を感じている職員も少なからずいるのではないかと想像します。

では、私たち企業団病院の立ち位置はどうでしょうか。PCCやSDMを実践する上では、都会の高度急性期病院よりも地方の病院や慢性期・回復期を担う病院の方が、患者さんと向き合う時間を確保しやすい環境にあります。特に看護師は患者に最も近い存在であり、理解者であり、多職種・他施設をつなぐコーディネーターとして重要な役割を担っています。この役割が、「患者中心の医療」を現場で実現する鍵となります。長崎県病院企業団が置かれた環境は、地域にPCCを根付かせる上で極めて

て適していると確信しています。離島で生まれ、育ち、働き、出会い、ともに生きる。そして離島で一生を全うする。その傍に私たちがいる。私たち職員一同は、このような地域の方々の声に耳を傾けながら、その人らしい生き方を尊重する全人的な医療を追求してまいります。そして地域から真に信頼される病院づくりに努めてまいります。本年もどうぞよろしくお申し込み申し上げます。

第47回 長崎県地域医療研究会

～ 地域へ集め、地域で育て、地域に残す ～

11月8日、9日にかけて長崎ブリックホール(長崎市)で、第47回長崎県地域医療研究会を開催しました。今回は企業団病院等関係者のべ約300名が参加し、会長である五島中央病院の竹島史直院長の開会挨拶の後、「地域へ集め、地域で育て、地域に残す」をテーマに、県内企業関係者による講演、大学教授・病院長・行政関係者などによるシンポジウムなどが行われました。また職種ごとの一般演題プログラムでは、企業団病院の研修医や入職後5

年以内の職員のほか、長崎県立大学シーボルト校の学生の皆さんにも発表いただきました。



開会挨拶



長崎県立大学学生

特別講演

「風土と人がつくりだすもの」



五島市でクラフトジン・GOTOGINを生産・販売している門田代表取締役から、「(五島の)風土と人がつくりだすもの」をテーマに大変参考になる講演をいただきました。

講演者:株式会社五島つばき蒸溜所
門田 クニヒコ代表取締役



シンポジウム ①

「地域に医師を集め、育て、残す」

座長である五島中央病院の竹島史直院長の進行で、参加された5名のシンポジスト、対馬病院 八坂貴宏院長、長崎県離島医療医師の会(もくせい会) 平光寿会長、長崎大学病院 松島加代子医療教育開発センター教授、ながさき地域医療人材支援センター 大坪竜太センター長、病院企業団 八橋弘企業長から、それぞれのお立場で医師について、どのような人材を確保・育成・定着させていくかの様々なご提案がありました。



松島長崎大学教授



大坪センター長

来年度は令和8年10月31日・11月1日開催予定で、会長は精神医療センター院長となります。

介護福祉士の活動

企業団病院では多職種が連携して医療を提供しています。今回は、昨年度から新たに正規職員の職種として採用を始めた介護福祉士として、島原病院の帆足さんに仕事内容やその魅力についてお話を伺いました。

Q 介護福祉士の仕事内容を教えてください。

A 医師・看護師と連携しながら、患者様の生活を支えます。検査への付き添いや食事・排泄・入浴・更衣・体位交換の介助・環境整備、福祉用具の準備・点検なども行います。

Q 介護福祉士を目指したきっかけを教えてください。

A 学生時代にボランティアで介護福祉士の体験をしたことで、人の生活に寄り添う介護の仕事に魅力を感じました。誰かの支えになりたいと思い目指し始めました。

Q やりがいを感じる時、楽しいときはどんなときですか？

A 食事介護をしていた方が、自分で食べられるようになったり、ベッドから車椅子への移乗が少しスムーズになったりなど、小さな成長・変化と一緒に喜べる瞬間です。楽しいのは患者様との交流です。人生経験豊富な患者様から教わる事も多く、自分の成長に繋げることも出来て楽しいです。

Q 働くうえで心がけていることはありますか？

A 患者様の安全・尊厳・回復を第一に考える姿勢です。多職種連携も心掛けています。チームで支える姿勢が大切だと思います。

Q 介護福祉士という職業の魅力を教えてください。

A 人の人生に寄り添い、その人らしさを支える専門職であること、最期を迎える場面に立ち会う事もあり、その人と家族の人生に関わり、人生に寄り添える温かさを感じられることが魅力です。

帆足さん、これからも活躍を期待しています。インタビューに答えてくださり、ありがとうございました。



プログラム

1日目

開 会

一般演題(看護部門)

一般演題(研修医)

一般演題(入職5年目までの職員①)

一般演題(入職5年目までの職員②)

シンポジウム①『地域に医師を集め、育て、残す』

特別講演『風土と人がつくりだすもの』

2日目

シンポジウム②『地域に看護職を集め、育て、残す』

一般演題(看護部門)

一般演題(医師・医療技術・事務部門)

閉 会

シンポジウム ②

「地域に看護職を集め、育て、残す」

座長である病院企業団の貞方三枝子人材育成コーディネーターの進行で、参加された4名のシンポジスト、長崎県看護協会 日野出悦子会長、長崎県福祉保健課 野中伸子保健管理監、長崎大学病院 小淵美樹子医療育成室長、対馬病院 福島利恵看護部長から、それぞれのお立場で看護師について、どのような人材を確保・育成・定着させていくかの様々なご提案がありました。



令和7年度 中堅職員研修報告

病院企業団では、中堅職員に必要な組織マネジメントを学び、職員としての誇りと責任を育み、企業団として一体感を醸成することを目的とした研修を毎年開催しています。

対象は、採用後10年以上の勤務経験を持つ31歳から50歳未満の主任・係長です。

本年度は10月16日～17日の2日間、長崎市内において開催し、看護師、事務職員、理学療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、臨床工学技士、精神保健福祉士の計24名が参加しました。

研修 目標

- ① 中堅職員として、組織マネジメントについて視野を広げる。
- ② 中堅職員として、管理および病院経営上求められる自己の役割を明確にする。
- ③ 企業団病院(自施設)の発展のために創意工夫ができる。

研修 内容

1日目

- ① オリエンテーション
- ② 八橋企業長による講話
- ③ 馬場副企業長より講義

テーマ：「長崎県病院企業団の現況・公務員サービスについて」

- ④ 庄山主幹よりミニレクチャー

テーマ：「地域の病院として災害にどう備えるか」

※1日目終了後に意見交換会を実施



2日目

- ① 貞方人材育成コーディネーターより講義

テーマ：『「中堅職員の役割」チームマネジメントとリーダーシップについて』

- ② 頭島看護管理監によるワークショップ

テーマ：「地域に信頼される病院とは」



研修 レポート

レポート.1

研修に参加し、中堅職員の役割や立場、組織のマネジメントについて学び、ワークショップ等では地域への信頼される病院になるためグループワークにて対話し学ぶことができた。



レポート.2

多職種の職員と共通の課題について意見交換を行う中で、自分と異なる視点から意見を聞く貴重な機会となった。今後は自分の部署だけでなく、病院全体を意識した行動を心がけたい。

レポート.3

中堅職員として、自分の役割を果たしながらチーム全体の力を引出し、組織の求心力を高めていくことが、今後の医療現場における自分の使命と感じた。

参加された皆さんは、2日間の研修で学んだことを活かし、同じ環境で働く企業団職員とともに、これからも地域医療に貢献していきましょう。

患者数の減少、人件費や物価の上昇等により、病院経営はますます厳しくなっていますので、更なる経営改善の取組を進めていきましょう!



令和7年度上半期(4月~9月)の経営状況

区 分		令和7年度	令和6年度	増 減
患者数 (人)	入院延数	162,871	168,615	▲5,744
	外来延数	306,534	315,170	▲8,636
1人1日当たり 診療単価(円)	入 院	42,899	41,804	1,095
	外 来	12,266	12,083	183
医業収益 (単位:百万円)	入 院	7,361	7,418	▲57
	外 来	3,760	3,808	▲48
	計	11,121	11,226	▲105
医業収支差(単位:百万円)		▲2,662	▲2,293	▲369

【患者数の動向】 昨年度と比較して、入院患者数は精神医療センターなどで増加、上五島病院などで減少して、病院企業団全体では5,744人の減となっています。外来患者数は島原病院、富江病院などで増加、五島中央病院、上五島病院などで減少して、病院企業団全体では8,636人の減となっています。

【経営の状況】 昨年度と比較して、入院収益は1人1日当たり診療単価は増加したものの、患者数が減少したことにより57百万円の減、外来収益も1人1日当たり診療単価は増加したものの、患者数が減少したことにより48百万円の減となっています。それにより医業収益も105百万円悪化しており、医業費用における人件費や経費が増加していることなども相まって、医業収支差は昨年度から369百万円悪化しています。

2025年 第22回「長崎の医療と病院経営を考える会」

病院企業団設立以前から開催している本会議を、11月11日に長崎市市内にて開催し、県内18の公立・公的医療機関の院長・事務責任者や、病院企業団の米倉正大名誉顧問などが参加し、経営状況や各種取組についての情報共有や意見交換を実施しました。

会議では、長崎医療センター 高山隼人院長より「ドクターヘリの歴史と医療センターの運営について」、対馬病院 八坂貴宏院長より「対馬病院の経営・人材育成へリ搬送の対応について」の講話をいただきました。また、各病院の決算状況やDPCデータの報告のほか、各病院から経営改善への工夫や、人材確保の取組の事例などについて紹介し、活発な意見交換がなされ、非常に有意義な会議となりました。



つたじゅう

蔦重と長崎遊学

NHK大河ドラマ「べらぼう〜蔦重栄華乃夢噺〜」に主役の蔦屋重三郎と交流のあった、天明狂歌ブームの立役者 大田南畝、もう一人エレキテル・寒暖計を作った平賀源内と長崎にゆかりのある2人が登場しました。

大田南畝は長崎に滞在した頃は、^{よものあから}四方赤良の戯名で

「わりたちも みんな出て見ろ 今夜こそ 彦やまの 月はよかばい」

(諏訪神社から眺める彦山の山々の端から出る名月はどこで見るより気高く美しい)と詠んでいます。この狂歌は『長崎名勝図絵』に記されており、幕府勘定所の役人だった南畝は寝惚先生、蜀山人などの戯名で狂歌・狂詩、戯作で活躍しました。1804年9月から長崎奉行支配勘定方として着任し、翌1805年10月には長崎を離れますが、時津町の鯖くさらかし岩でも

「岩かどに 立ちぬる石を 見つれば になへる魚も さはくちぬべし」

(落ちそうな岩を怖がり、落ちるのを待っていたらとうとう鯖を腐らせた)と詠んでいます。

当時は狂歌が大流行。狂歌とは和歌の形式に世相批判や滑稽さを盛込んだものですが、和歌の教養と笑いや皮肉のセンスが問われます。また、それを受け入れた江戸庶民の識字率の高さにも感心させられます。

平賀源内は2度ほど長崎を訪れており、1度目は1752年25歳の時に高松藩命で遊学し、2度目は1770年に田沼意次の命を



鯖くさらかし岩(時津町)

を受けて阿蘭陀通詞 吉雄耕牛の下で海外の新しい知識の吸収に努めました。彼は長崎で入手した摩擦起電器の復元に7年の歳月を費やし、1776年ようやくエレキテルの模作に成功します。また、世相を痛烈に批判・風刺して滑稽本の先駆者ともされています。



BREAK TIME



ということで今回は「長崎遊学」に触れてみたいと思います。長崎は開港以来、全国の優秀な若者が阿蘭陀通詞や唐通事などを訪ね、医学、語学、詩歌、書、絵画を始めとする最先端の知識・技術を学び、郷里に持ち帰っていました。その中には日本の近代化を支えた多くの重要人物もおり、長崎は学問を志す若者なら誰もが憧れる「知の最先端」でした。その数は平松勘治氏の「長崎遊学者辞典(平成11年発行)」によれば、北海道など全国から1,052人をはるかに超えます。

分野別に見ると、医学では「解体新書」翻訳の中心人物・前野良沢。1770年に大分県中津市に戻った折に長崎を訪れています。大阪の適塾で多くの医師を育てた緒方洪庵。1836年27歳の時に時のオランダ商館長ニーマンに従学しています。このほか日本で最初の西洋式近代病院「小島養生所(現在資料館があり見学可能)」の頭取・松本良順。明治新政府のドイツ医学導入に貢献した相良知安など日本医学の基礎を築いた多くの人材がいます。

また、政治・思想分野では、松下村塾を主宰した吉田松陰。江戸幕府の軍艦奉行・勝海舟。幕末の志士・坂本龍馬。慶應義塾の創立者・福沢諭吉。初代内閣総理大臣・伊藤博文。早稲田大学の創立者で総理大臣等の要職を歴任した大隈重信。東洋のルソーと呼ばれた中江兆民などがいます。美術の分野では、洋画家で蘭学者の司馬江漢。南画家の田能村竹田。文学の分野では俳人の小林一茶などが挙げられます。

彼らは長崎で修得した知識で新しい社会・文化を創り、日本の発展に大きく貢献する人材となっていきました。

さて、最後に心に残った一言、グーグルを創業したラリー・ページ氏の2009年ミシガン大学卒業式でのスピーチ「ものすごい大きなバカみたいな夢を見ることが成功の鍵なんだよ」そんなメッセージを送っています。皆様も今年は大きな夢を見てスタートしましょう。(文:副企業長 馬場秀喜)



明けましておめでとうございます。今年の干支の『午(うま)』は健康や豊作、跳躍などを意味するのだそうです。皆さまの今年一年の目標は何でしょうか?読んでくださった皆さまの健康と飛躍ある1年となりますように [R.T]

表紙写真提供:(一社)対馬観光物産協会
裏表紙写真提供:(一社)長崎県観光連盟

令和8年1月発行
編集・発行/長崎県病院企業団本部
〒850-0035 長崎市元船町17-1 長崎県大波止ビル7階
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759
[E-mail] honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp
[U R L] https://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp
◎上記メールアドレスに記事についてのご意見・ご感想を どんどんお寄せください!

地域で支える医療と介護



長崎県病院企業団 検索

長崎県病院企業団
ホームページ

